２０２４年度森と水の源流館事業づくりセミナー成果報告会

奈良教育大学　中澤静男

開催日時：２０２５年２月８日（土）１０時～１２時１０分
開催方法：オンライン

１．「つながる紀の川」有功東小学校４年生総合的な学習の時間（早崎先生）

（１）単元前の児童

〇自然環境が好きな児童が多い

▲千手川と紀の川や海のつながりに気づいていない、自分の生活とのつながりに気づいていない

（２）単元展開の概要

①千手川のフィールドワーク　（目的：千手川への関心を高める）

見学場所

・千手川と紀の川の合流地点

・紀の川大堰

・海とのつながり　干潟での生物観測

②学習課題づくり（もっと調べてみたいこと）

学習テーマ「紀の川の自然や、川と人のかかわりについて調べる」

・川の水の循環　きらめき紀の川、水道企画課

・７月　上流である川上村訪問　自然環境を感じる　　ダムの役割を知る

・水の使われ方：利水の歴史・大畑才蔵を通して　　県立博物館

〇マイテーマ学習（個別学習）と協働学習（どうしてダムを造ったのか　　紀の川の産業）

③源流館による出前授業・歌

大滝ダム防災ステーション　ダム（現在）、丹生川上神社（ダム以前）

紀の川漁協、清流の会　アユを食べる

現地学習・食：感性
人から学ぶ
時間軸

作文「私と紀の川・吉野川」

（３）単元後の児童

〇紀の川と暮らしのつながりに気が付いた

〇紀の川と自分とのつながりに気づき、行動化に発展した

▲出会った人々に関する学びを充実させたい

【意見交流】

・費用に関して：企業等からの学校への助成金を利用

・地域との連携においては、教員自身のネットワークに加えて、民生委員や社会福祉協議会の方々に依頼。もっと身近な単元の場合は、児童からの提案も参考にしている。

・現地学習、水の飲み比べ、アユの塩焼きなど、児童の感性を育てる場面がたくさんあったことが、行動化につながったのだろう。

２．「わたしたちができること」紀の川市立田中小学校３・４年総合的な学習の時間（土橋先生）

（１）単元展開の概要

①１年目　イチゴ農家の訪問とイチゴ栽培へのチャレンジで見えてきた課題

・獣害対策の必要性、温暖化対策　　←　温暖化への適応のみで「緩和」には至っていない。

②２年目

社会科：クリーンセンターの見学・海岸のゴミ拾い　→　ゴミ問題を解決したいという思いに

ＧＴ・平井研さんより学ぶ

・上流・中菱・下流の調査－現状・事実把握

・個人よりも多くの人を巻き込む必要性

→池田小学校との交流　友が島「運動海」への参加

川上村への現地学習

水の飲み比べ

尾上さんから、森と水と海のつながりを学ぶ

川上村の看板から多くの人を巻き込むことの重要性を確認

国語科との連携　　書くことはメタ認知を高める

【意見交流】

・生き物とのふれあいから感性を育てている

・ごみ問題はスケールが大きい。子どもはできることの限界（大きな壁）を感じていなかったか

発信・表現はアウトプットであり、それによって何がどう変化したのかがアウトカム

教育の効果は、子どもの変容でも十分効果的であると言える。社会への影響を見るためには、フィードバックを得る仕組みを作る。メディアを利用するなどがある。

・ごみ問題の解決は、大人が真剣に取り組まなければなならない（平井氏）

ＩｏＴトング「とんがーる」の紹介

３.「身近な環境を考えよう　紀の川のつながりを通して」

橋本市立西部小学校４年生総合的な学習の時間（辻本先生）

☆子どもの意識の流れや思考を大切にした授業づくり

クリティカル・シンキングを育て、自らの生活を問い直す子どもを育てる

（１）単元展開の概要

社会科との連携　エコライフ紀北（ゴミステーション）の見学

「自分たちの町は自分たちできれいにしたい」への共感

→　ゴミ拾いしよう　行動化

→　捨てる人をなくしたい　新聞づくり・発信

「くらしを支える水」水の飲み比べ　　→　川上村への関心を高める

間伐材を利用した割りばし・川上宣言を学ぶ

道徳科との連携　「ダム問題」

社会科との連携「自然災害から命を守る」　環境とつながる自然災

源流館への現地学習　　大滝ダム・学べる防災ステーションでの体験学習

・上流・中流・下流のつながりを学ぶ

・紀の川のために自分たちにできることを考える

（２）成果と課題

〇現地学習の価値を感じた　　見て・聞いて・感じながら学ぶ

▲下流についての学習には課題が残る
〇様々な場所・立場の思いにふれることができ、自分の生活とのかかわりにも気づくことができた
▲水の使い方に効果があったか
〇毎時間の記録をとることで、意識や行動の変化を把握できた
▲毎時間の記録を残すことは、教員の負担が大きい。

【意見交流】

・源流館でスタッフの方より児童に問いを投げかけてもらったのが良かった。教育施設としての源流館の良さが実感できた。
・子どものノートなどを丁寧にみて、子どものふとした疑問を全体に投げたことで、意識の流れに則した学習が展開できた。

４．源流館の取組

川上村公共塾　　ふるさと力　と　人間力

ESD はよりよい社会を創っていこうとする人を育てること

小学生は小学生なりに　中学生は中学生なりに　大人は大人なりに　自分ができることを実行化する人を育てる

教育効果を高めるためには、先生方とのコミュニケーションが重要になっていく

9 年後の目標にする子どもの姿を共有したい

チャットの記録

２月８日（土）森と水の源流館

流域のつながりから、郷土愛が育っていくのかなと思います。・質問としては、担任のマイカリキュラムの作成時に、学校運営協議会は関与されていますか？

吉田宏＠奈良県立磯城野高等学校 10:42

また様々なセクターと連携していますが、これは先生独自のネットワークによるものですか、また児童からこの人に聞いたらよいとか提案はありましたか？

早﨑＠有功東小 10:48

吉田先生、

ありがとうございました。来年度の学習では、学校運営協議会に大掛かりなサポートしてもらう予定です。福祉に関する学習です。

あなた 10:53

知識だけでなく感性を育てておられたのが良かったです！

吉田宏＠奈良県立磯城野高等学校 11:00

本校では学校運営協議会の熟議を経て、地域連携や交流、そして ESD はまだまだできていません。

中谷栄作 11:08

大きな問題をあつかっていると感じているのは大人だけなんだと思うんです。子どもたちは実際の効果

以上に「できることをすることにやりがいを感じる」段階だと思いました。
ここに効果を測定することで客観的な視点が入ってきてさらに深まる、みたいな。
教育実践でつくったモデルがどう継続発展していくか・・・そこを行政や自治体の人たちに協力してほしいですね

吉田宏＠奈良県立磯城野高等学校 11:11
土橋先生　前の早崎先生もそうですが、校種が違うと新しい発見、気付きがあってたいへん楽しく聞かせていただいています。 勝手なことを申すと怒られるかもしれませんが、イチゴ栽培、近隣の農業高校と連携してみてください。 本校は近くの小学校と連携し、小学生の栽培委員会の指導に高校生が行っています。昨年、雄花、雌花の話で、高校生がその場で教材にベゴニアを使い、児童に説明するというシーンがありました。これに驚いたのは小学校の先生方でした。ベゴニアに雄花雌花があることを知らない先生ばかりでした。これなら教材として割と長期間利用できます。高校生にとってもかなり有意義な交流となりました。
うちは用水路に生き物調べで入る際、ゴミ拾いをしています。悲しいかな農業資材も多く、近隣の農家に見ていただいています

吉田宏＠奈良県立磯城野高等学校 11:22
高校は、まだまだ個人によるところが大きいですね。私も異動したら継続できないようなことは縮小廃止してほしいと言われています。働き方改革もあり、自ら指導したいという人がいない限り、他の先生にさせることはできません。学校としての取組なら、こうはならないのですが、結局させられる人が出て形骸化してしまうのかもしれません。トップダウンとボトムアップのすり合わせを学校運営協議会に期待していたのですが…。

中谷栄作 11:22
現在「ゴミ拾いをすること」「IoT トングを使うため、JT と株式会社ミカがコラボしてくれること」「市役所の学校教育課が少しなら協力してくれること」「ボランティアゴミ拾いとして登録すればゴミ袋を市役所から貸与してくれること」が決まっています！橋本市内でオススメの場所などあれば知りたいです～
中谷栄作 11:37
源流館のみなさんが「問いを作る」ことを大切にしてくれていることが分かる、それを料理する先生の手腕もすてきな実践でしたね～

橋本智美（福岡市 栄養教諭） 11:39
先生方のご報告から、和歌山県の ESD のサポート態勢（博物館や源流館など）が素晴らしいと感じました。先生方と地域の資源とのつながりが宝ですね。食を切り口での ESD を進めるため、改めて社会科での子どもたちの学びを私自身が学びたい！と感じました。

中谷栄作 11:51
その「この問い」を全体で自分事にするテクニックが知りたい。それと、それらを個別に探究させるこ

とをしているのかだれの問いを次のテーマにするかは先生が選ぶ？
授業の開始をふり返りからやるってことですね、了解！多分それをするかしないかで授業づくりが変わってくると思うんです。子どもありきかどうかのはじめの節目になると思うので・・・

加藤満@奈良県川上村 11:58
奈良県川上村の加藤です。 本日は耳だけ参加で失礼しています。　お三方とも素敵な授業の共有ありがとうございました。 毎回のことながら、目的意識をしっかりもって、現状を把握しながら、次に行うことが決まり学習が深まっていく。 あらゆる仕事にも共通することだなと思います。 ESD を意識した時、子どもたちを超えた大人たちへのアクセスは、一行政マンとして取組甲斐のある大きな問題だなと思います。 単純な評価軸で物事を図るだけでなく、事象の様々な側面を見て聞いて感じて、どうしていくか、考えていくことが世の中社会をつくっていくものだなと思いました。　素敵な時間をありがとうございました。

尾上さんのお話をお聞きして、栄養教諭として ESD の授業提案をする際に同じ視点でアプローチすると先生方にとっても、私にとっても良い取り組みにできると感じました。先生方に教材となる素材を提供できる栄養教諭を目指したい！と思います。とても参考になりました✨ありがとうございます😊